

サークル紹介

お客様の笑顔が一番うれしい

「ぶじょこの会」



どじょう掬いと言えば安来節、手ぬぐいで頬かむりをして、カスリの着物に腰には竹びく、一文銭の鼻あてをまとったユーモラスな姿にだれもがほほ笑みます。

「ぶじょこの会」は、武里地区公民館で毎月2〜3回練習に励んでいる。会員10名、代表は松本始さん。練習では腰を落として独特の歩き方を全員輪になって4分間、息が切れてハアハア、そのあとは曲に合わせ個人レッスン。師範の澤田先生は穏やかな笑顔で見守っています。終わった後に「笑顔を作るときは、本気で笑って」と優しく指導します。踊りの指針は次のとおりです。

- ・稽古は真剣に取り組み
- ・一つの手順を細かく丁寧に



・倦(うます)弛(ゆる)ためます焦(こ)らずに
 ・その結果が出るのが本番
 ・努力は報われると信じて
 ・理(ことわり)に基づいた技量を大切に
 ・芸(う)はつらいが嘘をつかない
 会員は練習に余念がなく、芸を究めようとする心意気が伝わります。成果を披露するため、老人ホームや障がい者施設に出向き、ハーモニーフエスタや武里市民センター祭りにも参加しています。どこで演じても大人気で拍手喝采を浴びています。「その場の雰囲気を一瞬にして和ませ、人を笑顔にするのがこの芸の極致」と松本代表。また「中腰でひざ、腰を使う動作は想像以上にきついです。それでも楽しいですよ。健康に自信のある方は、ぜひ入会を」と呼びかけています。

社交ダンスをみんなです

社交ダンスの会「萌・友の会」



「萌・友の会」は、豊春地区公民館で毎週土曜日の12時から15時まで活動しています。

会員は、男性15名、女性15名で、指導しているのは、小林美恵子先生です。

会の活動は、豊春地区公民館の文化祭に出場、年に2回、他の会場でのダンスパーティー参加、11月には1泊2日のダンス旅行を行っています。

練習は、男性・女性とも黒い服とズボン・スカート姿で、男性と女性が入組になって、音楽に合わせて「ルンバ」「ワルツ」「サンバ」の曲で踊ります。

一人ひとりの会員の目標は、「どの曲でも踊ることが出来るようになること」です。

練習のやりがいは、一つ一つの曲の練習を重ねて、きちんと踊ることができたという達成感です。また、ダンスは多くのステップがあるので、認知症予防にもよく、続けることが効果的です。長い人では、20年以上も続けている会員がいます。最後になりましたが、ダンスに興味のある方は、いつでも歓迎します。

